

行政視察報告

一般質問から

生活福祉委員会 行政視察報告

5月16日石川県七尾市で子育て支援総合推進事業と健康増進施設を、5月17日富山県魚津市では環境美化推進事業を、それぞれ視察、調査しました。今後、網走市と比較検討し議論を深めていきたいと思えます。

七尾市では、子育てと就労の両立を支援する事業を全国に先駆けて実施しており、出生率1.55、女性就労率86%と高い数値を示しています。主な事業は、延長保育事業、一時保育事業、病児保育事業など保護者のニーズを積極的に取り組んで対応されていました。また、健康増進施設は指定管理者制度を導入し医療法人が指定管理者として運営を行い、年間約13万人もの利用があるということです。

魚津市の環境美化推進事業はアメリカで生まれた市民参加型の環境美化の手法で、参加した多くの市民から、散乱ごみが減少した、まちの美化への関心が高まったなど、高い評価を受けており、環境教育や不法投棄の減少にも一定の効果が現れているということでした。



経済建設委員会 行政視察報告

岩手県住田町の木質バイオマスの取り組みを視察しました。原油の高騰、地球温暖化、京都議定書これらすべてに脱化石燃料が求められる時代です。住田町において木質ペレットは灯油の7～8割程度のコストといわれており、暖房器具は初期投資が現在値の張る現状でしたが、その元は十分取れるものです。しかしペレットの輸送コストを考えると高いものになるので、網走にあっては、その生産を待たなければなりません。住田町では集成材の生産をしており、その端材でペレットの生産や発電を行い事業化として成り立っています。網走でも森林組合が合併され中核森林組合になりました。森林資源の利活用に参考になればと考えています。

青森県弘前市では、世界自然遺産の観光と環境との共生の調和、ツアー観光からの移行、団塊の世代の取り込み、外国客の受け入れ対策、修学旅行のリピーター率など観光振興を視察しました。



学校2学期制への導入には慎重な対応を



日本共産党議員団 飯田 敏勝

問) 網走小学校は評価方法を大幅に変えたと聞くが、前例になるのではなく、その学校の裁量に評価方法を任せるべき。また、2学期制での夏・冬の長期休みをはさんだ教育効果や教師の研修権の確保など、教育効果が変わらなければ導入は各学校の裁量に任せるべき。導入については地域、父母への周知が不十分で、丁寧な説明が必要。学習時数確保イコール学力向上ととらえるのではなく、教育活動全体を視野に入れた学校づくりのため、導入には慎重に対応をすべきと考えるが、教育長の見解を求めらる。

答) 評価方法に限らず教育課程の編成・実施については学校長の責任で行い、学期制導入の判断は検討を進めて行く中で、いずれも教育評価、効果から見て学習指導や教育活動の充実が変わらなければ、各学校長の裁量は重視すべきと考える。周知方法は市の広報を活用しての説明や「2学期制推進会議」の協議内容の周知に努める。

いずれにしても、市教委の方針は、2学期制はよりよき学校づくりに有効で、豊かな心の育成と学力向上につながるので「2学期制推進会議」の中で、慎重かつ十分に議論・検討していきたい。

総務文教委員会 行政視察報告

富山県高岡市の学校給食における取り組みでは、「地産地消ネットワーク」を設立し、生産者の苦勞や思い、地場野菜への理解を得ることや、学校給食への地場野菜の拡大が図られていることなど、「食育」の観点からも参考になりました。

石川県金沢市の教育行政では、「学校教育金沢モデル」推進の一環として「学校2学期制」の完全実施や、教育特区における「小中一貫英語教育」は、子供たちの学力に合った授業として、順調に推移しているとの報告を受けた。また、同県羽咋市の行政改革では、職員1人ひとりの能力を最大限引き出すことで、分権時代の担い手育成を目指す新人事制度の導入や、窓口業務の延長と「総合窓口システム」の導入により、住民にとって利用しやすく、ほとんどの手続きが1ヵ所のできる質の高いサービスを提供している。

以上、特徴的な3市の報告ですが、課題認識の整理を要しつつも、今後の当市行政に大いに参考になりました。



六月に開催されました第二回定例会会議録については、九月上旬に完成する予定です。(ホームページでもご覧いただけます。)